表紙, 目次, 通信, 雑報

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/38185

欽定四庫全書

全會雜誌

大正三年一月發行

第十九卷第一號

全澤醫學專門學校
全會雜誌
書庫部

第十九卷
第一號
(第九十六號)

全澤醫學專門學校全會

十全會雜誌第十九卷第一號（第九十六號）目次

○原著及實驗

●小兒ノ心臟發育狀態並ニ其發育ト年齡トノ關係ニ就テ。
京都醫科大學法醫學教室
助手　名取博三
下總國飯岡町　七五三龜吉
●臟位轉錯症ノ追加。

○通　信

●平原雲新氏通信。●岩佐兵藏氏通信。●渡邊八之進氏通信。●筱岡良作氏通信。●水口、安達兩氏通信。

○雜　報

●十全會東京支部會。●十全會村松町支部會。●島田吉三郎氏送別會。●松村喜一氏、李廷擢氏送別會。●新卒業生。●新卒業生消息。●第六回金澤病院醫事集談會記事。

○叙任及辭令

●內閣。●金澤醫學專門學校。●石川縣。●海軍省。

○人　事

●死亡會員。●田中正一氏の不幸。●研究生。●陸軍見習醫官。●轉居會員。●居所不明會員。

○會　告

●大正元年度十全會費收支決算報告。●大正元年度十全會校外特別會員會費收支決算報告。●校外特別會員會費納付調書。

モ上界ノ左第七肋間ニ在ルノ外同樣ナリ何レモ常位ト左右相反スルヲ認ム

胃ハ膨滿試驗ニヨルニ一見右側ニ大ナルヲ認メ得ベク之ガ打診界ハ臍部ヨリ右季肋下部ニ向テ孤線ヲ畫キ得即チ鼓音界ハ右季肋部及上腹部ヲ占領ス從テ幽門ノ左側ニ在ルヲ推知シ得ベシ

大腸ハ人工的瓦斯膨滿法ニヨル右腸骨窩部ヨリ漸次右下腹部、上腹部、左下腹部ニ向テ膨滿シ鼓音界モ亦タ之ニ一致ス以テ盲腸部ノ左腸骨窩部ニ在ルヲ知リ得ベシ

以上ノ諸症候ニ依リ全臟位轉錯症ト認ム依テ此處ニ追加ス

通信

●平原雲新氏通信

（三十八年卒業。在馬來聯邦ペラク開業。本會宛）

拜啓仕り候。久〻御無沙汰に打過ぎ大に失禮仕り候、會員諸彦には益〻御精康御精勵の段奉大賀候、下りて不肖にも相不變頑健にて南洋の天地に東奔西走、白黑人雜人種を相手にチヤホヤ致し居り候。御地に於ては目下秋冷の候にて紅葉の好季節に相成り嘸々野に山に御活動の御樂みの御事と遙に羨しく存じ上候、當地にては再に著しき氣候の變遷無之實に夏白服一着にて一年中打つ通す如き土地にて候へば毛頭天然の變化なく唯々四時青々たる草木のみ欝々として陰氣を帶び不愉快を感するの外無之候、當地にては再に珍しき事とては無之候然し研究の餘地は多々有之候へども元來鈍き腦を有する小生には遊ぶ暇は有りても研究する暇は無しと言ふ有樣にて最も此の南洋には數年も居れば熱帶の土地柄、思考力、記憶力は大に減退するかの如く感ぜられ候先は愚筆を以て御伺迄匆々　（十月廿五日）

●岩佐兵藏氏通信

（三十九年卒業。越後開業。十全會宛）

（先畧）先日入手の會員名簿錄を此頃の閑務に一々小生の卒業年度なる卅九年度卒業生諸君の御健全を心ながら禧び相讀み申候處十三頁「ヵ」の部に於て涙を流して紙面爲めに闇きを覺へ申候

嗚呼織田秀時君十一月四日午前零時四十分白玉樓中の人となりたまひき

新竹病院に職を奉してより母を失ひたる君は本年五六月の頃業務に堪へざるの故廢業し九月上旬杉原村大字分山なる緣家に轉地せり當時訪問を受けたる時君は余の健康を祝されたり見れは下脚は浮腫し居たり心もとなき事なから君をなくさめたり越して十一月參日急を受けて往診を求めらる嗚呼君は四肢浮腫して呼吸息迫指尖口唇チヤノーゼを呈す涙滂を呑みつゝ「カンフル」「チカレン」各一筒の注射をなしぬ

只名簿を見て涙滲然として物書くに苦し君が悲音を同期生諸君及相知諸君に遲れはせなから御らせ申上候

二伸織田君に一男あり尙將來の御示導を願上候

●渡邊八之進氏通信

（四十四年卒業。臺北醫院小兒科。本會宛）

（前畧）小生初め基隆高柳病院に參る筈に候ひしも都合有之臺北醫院に入り候當院には先輩として内科二部に横井氏在り耳鼻科に渡嘉敷氏あり皮膚梅毒科には小生と全卒業の池上君あり常に相集りて母校及諸先生の御噂さ致し居り候（後畧）

臺北醫院小兒科にて　渡邊八之進

十一月二十三日

●筱岡良作氏通信

（大正二年卒業。東京三浦内科介補。本會宛）

（前畧）去十二月四日より東京醫科大學三浦内科の介補と相成申候間他事乍ら御放心下され度候三浦先生より去一日に來院せよとの通知により早速參院仕候處語學試驗。檢糖法の種類及其化學的反應を試問せられ一寸閉口仕り候ひしも御蔭樣により曲りなりに通り申し去三日附を以て辭令書を戴き四日より大學に通勤仕居候三浦内科には介補八名有之何れも皆な出來そうな人々に相見ゐ申候未だ大學内の樣子は何にも分り不申候（下畧）

東京本郷區森川町一番地蓋平館　筱岡良作

十二月五日

●水口、安達兩氏通信

（大正二年卒業。長岡病院勤務。十全會宛）

（前略）両迂御蔭を以て鈍才の身を省みず卒業後直に當長岡病院に參り目下外科（安達）耳鼻科（水口）へ出勤致し居候間乍他事御休心被下度候既に御承知に候はんが當院創立は可成古く候へ共幾多の變遷を經たる樣子只今は狹隘ながらも可成完備致居候

院長は金出澤身の澤崎先生（寛制）と申し篤學の聞へ高き御方に候、院内は内、外、産婦人科、耳鼻科、眼科の五科に分れ各部長は大學出身にて各科醫員一―二名を有し千葉、愛知、金澤の三醫專出身者よりなり候母校出身者は藤井最正氏（四十一年卒業）、穗刈光平氏（四十一年）、端谷豐吉氏（大正一年）の三氏なりしが只今は生等二人と相成申候、當院本館は一昨々年改築せられ相應に立派に候へとも病室其他は舊の儘にて患者收容數も僅七十餘にて金澤病院の比には無之候病院改築の筈なれば遠からず一新面目を呈する事と存候設備も可成設置せられX線の裝置も有之此が治療上にも應用され候「ラヂウム」も近々中に設置せらるゝとの事に候研究室のみは流石院長の篤學が引ひて院内の奬勵となり稍振ひ申候動物小屋も有之血淸診斷に供し居候殊に院長の細菌、外科の（草間科長）電氣、耳鼻の（下平科長）熱心なる研究振は大に院内の評判に候生等無學短才にして先生に分れ先輩も無く冷汗致す事も屢有之候互に恥を語らひつゝ努力奮鬪致し居候若し駑馬の鞭打以て母校の名譽を毀損せず諸先生の懇恩の万分の一を報じ得ば本望の至に御座候生來愚痴なるに筆不精を以て此につまらぬ事書き列れ申候

越後長岡。長岡病院　水口哲三　安達敬智

十二月九日

雜報

●十全會東京支部會

去十一月東京醫科大學教授片山博士在職二十五年祝賀會に列席のため本校より村上及松原両教授の上京ありたるを機とし且つ陸軍々醫學校在學生の歸隊せんとする人々の送別會に兼ねて十一月二十三日東京九段坂上の階行社内に於て十全會支部會を開きたり會する者野田忠廣。江波知輝。竹中繁次郎。坂野。佐伯。笠間眞。生沼曹六。森田齊次。太田精一。橋本監次郎等の諸先輩を初め三十余名に及び大に盛大を極めたり。

●十全會村松町支部會

新潟縣中蒲原郡村松町に在住せらるゝ本校出身者は去十二月六日全地に在住して同窓會を開き大に舊懷を披きて我十全會母會の隆盛を賀したりとて左の六氏より通信ありたり。

谷　民　次　　山本幹雄　　金子義長

嶺岡龜之助　　赤澤眞次郎　　西本松三郎

●島田吉三郎氏送別會（十一月十九日）

本校二十九年度の出身島田吉三郎氏は爾來東京永樂病院に母校出身者の基礎を作り次で金城療病院に救世の主となり次で母校講師となりて診斷學を教授せらるゝ事滿一年京都帝大解剖教室に助手となり勉勵努力幾多の業績を擧げられ次で新潟醫專の新設するや解剖教授として令名あり殊に此の溫厚篤學の美德は母校の勢名を東北の平原に走せ廣く本邦醫界其人ありと注目せらるゝに至りしが今回文部省留學生の大命を拜して幾多の先輩を歷して渡歐せらるゝ事となり故郷の地を訪ふべく來富せられしを機として同窓生相計り送別の宴を富山ホテル樓上に開く會する者、末岡、堀、田上、高田、近郷、加納、長澤、片山、福田の同窓生、に小西健太郎（大阪出身、金澤、中學時代同窓）民野亮二（同）、岡本重保（醫學士、京大出身）、の諸氏にして室は同樓貴賓室にして正賓を正座に櫻街の美妓酒間を取り持ちて興を添ひ席上、鈴木、金子の両先生、上坂、岡島、生沼、森田、松原、石川、の諸先輩に寄せ書を送りて歡びを共にし一同散會せしは午後十時過ぎなりき席上島田氏の挨拶田上氏の送別辞、堀氏の乾盃ありて何れも久々の會合とて實に溫清滿々近來に無き美しの會なりき。

同氏は二十日五百石町及水橋の故郷を訪問し近日金澤の母校に袂別をなし京大に暫時歩を止め來月上旬直に渡歐の考なりと云ふ切に建康を重ぜられ目出度御歸朝の日を待つ。

滯歐期間は三年間の豫定なりと。（十一月十九日富山にて。福田生）

島田吉三郎氏の人格。　氏の人格は崇高なるは吾人の辨を待たざる所なるも、來富の際には小學時代の下宿に（突然）二十何年目に止宿、大に主婦を喜泣せしめられし如きは今世紳士の能くし能ばざる處實に美談と云ふべし。

●松村喜一氏（四二）李廷擢氏（大二）送別會（十一月台）

久しく内科二部醫員として院の内外に名聲高かりし松村喜一氏は今回辞職して郷里に開業さるゝ事となりし爲め去る十一月八日内科二部及同窓生相謀り氏の爲めに送別の宴を金城樓に開きたり。會者高安校長山碕院長を初めとし諸教授醫員研究生約五十名なりき佐々木教授開會の辞に次きて松村

氏の謝辭あり次きて梶川氏は本年卒業生なる留學生李廷櫂君が翌十日出發さるゝ爲め別に送別會を開催すべき處時日なき爲め今夜同時に送別會を兼ぬとの挨拶あり李君之れに對して謝辭を述べられて宴會にうつる宴酣にして兩君の萬歲を唱へて散會せしは午後九時半なりき。

因に松村喜一氏は四十二年十一月卒業後直に內科二部に研究生として佐々木教授の下に研究せられ翌年五月內科二部醫員を拜命し傍ら櫻木病院に出張傳染病を研究せられ昨大正元年金澤病院に傳染病室開設せらるゝや其主任を命ぜられ珍療に從事せられ今日に至りしなり。

李廷櫂氏は本年十一月本校を卒業せられ上田教授の下に生理學を研究せられしか歸國の上解剖學の教授とならるゝと。

●新卒業生

昨年十一月の新卒業生は左の如し。×印は優等生銀時計下贈、○印は病理學成蹟優等のため小原芳雄君紀念書籍を授與せられたり。

（八十一名）

▲醫學科

×田中吉左衛門（長野）
×岡本晃（愛知）
盡村和喜男（石川）
安達敬智（長野）
水口哲三（岐阜）
大橋忠（福井）
木村武夫（德島）
松野敬和（富山）
益野留八（石川）
東義雄（石川）
原田四郎（愛知）
×後岡良作（富山）
○森部令次（岐阜）
鶴來政雄（石川）
杉本兵太（富山）
下川外史（石川）
橋虎次郎（新潟）
石川寛二（愛知）
松崎清博（富山）
千田登（石川）
岩崎宅治郎（三重）
小森定司（新潟）
中野憲吉（兵庫）
中西文雄（大阪）
長田敏（石川）
淺井勳（福井）
小島晴三（新潟）
北原直義（石川）
脇屋誠義（新潟）
江龍一彥（滋賀）
西本松三郎（石川）
岩崎文太郎（島根）
鹿野重太郎（石川）
內藤賴一（島根）
坂井貞準（石川）
谷藤吉（石川）
廣瀨文岳（岐阜）
土門寅造（山形）
齊藤靜衛（群馬）
任田傳次（石川）
田原利崇（滋賀）
菱刈碩文（鹿兒島）
中島儀一郎（茨城）
松江常行（石川）
波々伯部重隆（福井）
菊田文雄（廣手）
宮內吉太郎（愛媛）
生橋一郎（石川）
堀田愼之（富山）
松本乙男（石川）
大瀧經（埼玉）
太田潔（新潟）
吉田敬一（福井）
芥川信（熊本）
原伊之（埼玉）
山崎德三郎（石川）
布施宗一（新潟）
薗守常次（石川）
塚本秀十郎（福井）
中村芳雄（京都）
佐藤保治（山形）
棚田喜久雄（石川）
砂川茂男（石川）
林文桂（岐阜）
高山周造（石川）
久保井末造（滋賀）
阿川義人（山口）
神田定（新潟）
吉岡貞藏（福井）
佐藤改造（靜岡）
森田耕一（愛知）
松尾陸一（福岡）
佐々木武（福井）
鈴木仁吉（愛知）

細川孝一（富山）　藤田孫太郎（石川）
利根川渉平（埼玉）　茂木留吉（秋田）
中川百祐（群馬）　淺井爲孝（岐阜）
李　廷　權（支那）

▲藥學科（三十一名）

增永辰治（福井）　內藤得之助（京都）
宮崎　博（石川）　神田與敬（石川）
久米川虎八（德島）　松岡　協（石川）
武內增藏（兵庫）　塚田彌三（長野）
和田源五郎（石川）　高橋秀三（石川）
相　德太郎（北海道）　谷崎　確（千葉）
樺澤　博（新潟）　小出茂雄（東京）
宮田　榮（兵庫）　西川他見男（石川）
田中宗太郎（大阪）　野間　肇（愛媛）
長尾秀治（愛知）　石野金朔（石川）
吉野祐三郎（大阪）　井上源造（京都）
田中禮一（東京）　小林辰之助（石川）
中林清右衛門（石川）　高木貞治（岐阜）
小原他吉（石川）　船橋金之助（愛知）
堀　球造（福井）　鹿島守雄（北海道）
堀田文造（廣島）

●新卒業生消息

學校

醫化學　木村武夫　芥川信

細菌學　中西文雄　原田四郎
神田定　田中吉左衛門

金澤病院

內科一部　杉本兵太　佐藤保次
北原直義　久保井末造
坂井貞準　岩崎文太郎
松江常行
內科二部　盧村和喜男　東義雄
菱刈碩文
外科一部　高山周造　原伊之
外科二部　鹿野重太郎　內藤頼一
砂川茂男　石川寛二
眼科　橋虎次郎　藺守帝二
婦人科　大瀧經　松本乙男
波々伯部重隆　棚田喜久男
皮花科　布施宗一　淺井爲孝
張　黻鄉

大學

東京三浦內科　孫岡良作　山碕德三郎
同　小兒科　生橋一郎
京都賀屋內科　中野憲吉
陸軍見習醫官　鶴來政雄　森部令次
下川外史　千田登
大橋忠　小森定司
森田耕一

陸軍一年志願兵

海軍少軍醫　堀田愼之
東京樂山堂病院　細川孝一　齊藤靜衛
愛知縣岡崎、岡崎耳鼻咽頭科院　岩崎宅次郎　阿川義人
大阪市緒方病院　小島鼎三
金澤市金城病院　長田敏　任田傳次
同　淺野川病院　益野留八
福井縣立病院　塚本秀十郎
同　縣武生病院　谷藤吉
同　縣藤田病病院分院　松崎清博
同　縣敦賀病院　淺井勳　佐々木武
富山赤十字病院　鈴木仁吉
新潟縣長岡病院　吉田敬一
同　縣竹山病院　水口哲三
同　縣高田知命堂病院　脇屋誠義　安達敬智
同　縣警察醫　太田潔
自宅開業　西本松三郎
　　松野敬和　利根川渉平
　　田原利崇

●第六回金澤病院醫事集談會記事（十月十六日）

喜多禎次

腦腫瘍患者供覽

七歳の男子、石川縣河北郡の產、約三ヶ月前より認む可き原因なくして漸次左側偏癱を來し初めは患側手足の運動保持せられたるも三ヶ月の經過中患脚の疲行と患手の握力不能となり時々惡心と食餌に關係なき嘔吐、精神朦朧狀態となることあり依りて入院。遺傳的に特記す可きことなし、父、母患兒のワ氏反應陰性、檢眼上両側の鬱積乳頭あり右側に著し、脈膊時々寬徐（五六—六〇）視力障礙、複視なく、言語障碍、筋萎縮、「リギデート」、痙攣發作等なし、ピルケ反應陰性、依りて種々鑑別の結果該症狀は腦腫瘍に來るものにて本例に於ては恐く右大腦皮質下に生せる「グリオーム」ならむかと。

尿崩症患者に『ストリヒニン』の注射をなせる一例

梶川靜夫

患者三十六歳の女子、遺傳的關係、既往の疾患なきも、「ヒステリ」性にして稍々低能の方なり。患者は認むべき誘因なくして、約二年前より著明の多尿（一日數十回）、口渴（一日數升）、倦怠、輕度の羸瘦、頭痛、頭重、不眠、耳鳴、情緒變換、心悸亢進、全身厥冷感等の症狀あり。現在症。体格營養共に不良、胸腹部臟器に變化なく、角膜反射は消失し、膝蓋腱反射も亦殆んど消失す。脈搏体溫に異常なし。尿は水樣透明僅に酸性にして、比重は一〇〇一乃至一〇〇五なり、糖は常食に於て全く陰性にして、葡萄糖及蔗糖は百五十瓦を頓用せしめて初めて尿に痕跡の糖を証明す、故に含水炭素に對する患者の「トレランツ」は通常なり、蛋白及病的有形性分陰性、尿量一日約五「リーテル」半、飲料四「リーテル」、排尿度數三十回内外を算す（入院當時の平均數）。

右患者に入院來用ひたる藥物は阿片末、壜莫比、臭剝、沃剝、「アンチピリン」、「コフェイン」、纖草酸亞鉛、「アダリン」撒曹等なるも無効なり、只「アンチピリン」は神經症狀に對し著効ありしも、尿には何等の影響なかりき。依て千九百三年「フアイルヘンフエルド」、氏が初めて報告して以來「ライツ」、「スペーテル」、「スタイン」、「ライク」、「ピトリー」增山氏等に依り著効ありと屢々報告せられたる「ストリヒニン」の皮下注射をなせり。第一日硝酸ストリヒニン〇・〇〇四、第二日〇・〇〇五、第三日〇・〇〇六、第四

日〇・〇〇七、第五日〇・〇〇七、を何れも二回に注射せり、其結果第五日間の平均數は尿量九七〇〇ccm飲料七一〇〇ccm排尿度數四十六回、食鹽一二・六四、總窒素七・二二、比重一〇〇二・六となれり、之れを注射前三十日間の平均數に比較するに尿量に於て四九〇〇ccm、飲料三三二〇ccm、食鹽一三・一九、總窒素二・七二（但し食鹽及窒素量は注射前のものは三日間の平均數）排尿度數十一回の增加を來し、結果は全く豫期に反せり。之れを文獻に徵するに前記の諸氏は多尿口渴に對して著効ありと云ひ、「ホーフバウエル」、「クコプソン」、三浦、入澤、稻田博士等は全く無効なりしも、別に增惡せしめずと、而して贊否兩者何れも尿の「コンツエントラチオン」に對しては少しも影響なしと云ふ点は一致せり、然るに本例に於ては尿量、口渴、排尿度數非常に增惡し、食鹽、窒素量は絶對數に於ても亦百分數に於ても增加せり、即ち此両者の關係のみにては正確ならざるも尿の「コンツエントラチオン」は增加せるが如し。斯如き結果を來せるは恐らく患者の血管系統の「ストリヒニン」に對する過敏性に依るか、或は注射量の關係に依て高度の血壓亢進（注射後の血壓一四七mm）を來し爲に「グロメルス」血管の漏過壓の亢進に基くものならん力か。（自抄）

糖尿病の統計的觀察

近藤清吾

余は玆に余が直接間接に關係せる最近四年間に於て糖尿病患者七十六名を得て其統計的觀察を試みたり。余は素因、症候合併診斷豫後及經過、并に療法の三項に分ちて概說せんとす。

一、糖尿病と素因的關係

一、糖尿病者の數。　余は當科の全患者六千四百二名中に糖尿病患者七十六名を得たり。一、二%を算す。但し吾が佐々木内科は主として肺癆患者及神經病者を除外せる其他の内科患者を包含す。而して全内科患者數は當科患者の約三倍なり。

二、男女の關係。　男五九、女十七、即女一人に對し男三、五人の比

三、年齡。　二十歲以下一人もなし、四十年代最多。

四、遺傳。　遺傳を証するもの四八（五、三%）

五、職業。　農民三十一名其他の凡ての職業者を合して四十五名。

六、住居。　市町住居者四十名、村落住居者三十六名。

七、梅毒。　既往症に梅毒を証せるもの十一名（一三%）

八、脂肪肥滿。　七十六名中二十七名（三五、五%）

九、体格。　良及正當者四十六%、中及不良者五十四%

十、嗜好品。　酒嗜好者二十五名（三九%）甘味嗜好者二十六名（三四%）

之を要するに余が統計に於て先輩の統計に比して稍趣きを異にするもの之あり曰く

1　比較的農民に多かりしこと。

2　比較的村落住居者に少なからざりしこと。

3　甘味を嗜好するもの比較的多數なること之なり。（自抄）

凍傷狀狼瘡の一例

小原隼三

今西某一九才（下女）血族關係＝両親健全著患無、同胞六姉は三年前不明疾患にて倒る（廿歲）其他健、患者は第三子なり既往疾患＝生來健幼時癇疹經過、種痘二三回善感、三年前より両手背、両足背指趾に凍傷を來す

現病歷＝昨年六月頃両耳翼發赤、腫脹、疼痛。灰白色痂皮を生ず。右翼は觸れて痛あれとも左翼は痛無し。本年正月鼻尖に一個小丘疹生じ自覺症無し。漸次周に蔓延し。現今は拇指瓜大と成る。

現症＝体格。營養共中等、顏面に雀斑、両指瓜變型、凹凸不平、両手背に凍傷後の瘢痕あり。鼻尖部に拇指瓜大、隨圓、暗紫紅色斑あり。中央は稍〻瘢痕樣萎縮に陷り。白色韮薄落屑を被る。指壓に退色し。自發痛、壓痛外無し。右耳翼に小指瓜大暗青色の腫脹參個あり、乾燥し、殆ど落屑せず、指壓に退色せず。觸れて僅に痛あり。左耳翼に同一腫脹部、貳個あり。觸れて痛無く、自覺症無し。

本症は稀有の疾病にて主症狀は鼻尖、耳翼、頰部、手背、足背等凍傷の好發する部に生じ。冬期に增惡し。夏期に著しく輕快す。初めは鬱血症狀を呈し。紫青色にて周邊の境は稍不明瞭なり。皮下或眞皮中に硬き浸潤を形成し。終に中央部は瘢痕樣萎縮に陷り、表面には擴張せるも毛細管を見る。潰瘍に陷ること殆ど無し。本症は尋常性狼瘡に屬すと論する者あり。紅斑性狼瘡の一種とな者すあり。要するに臨牀上には両疾病に對し多少相異せる点あり。組織的には巨態細胞、上皮樣細胞、單核圓形細胞浸潤あり。本症を以て「ツベルクリード」の一種と看做す。尤も穩當なる會釋ならんと信す。（自抄）

山碕部長質問。土肥部長追加。

癜風に就て　土肥章司

癜風は自覺的症狀殆ど無く患者は毫も意に介せず特に本症の爲めに診を乞ふ者極めて稀にして多くは偶然に之を發見す余は金澤病院皮膚科新來患者千五百名中二十六名即ち一、七％の本患者を認め東京大學皮膚科七年間の平均數〇・九五％に比して著しく多數なるを覺ゑたり而して發汗後に於ける皮膚の不清潔は本症を發生せしむる主なる誘因にして屢〻入浴し皮膚を清潔に保つは最も有力なる豫防法なりとす、余は彼の「チエロイヂン」法に依て落屑を剝離し「ポリクローメス、メチーレン」青にて染色せる標本を供覽すべし該標本に於て諸君は菌絲及び芽胞が美麗に染色し無數存在するを認めらるべし。（自抄）

糖尿病の統計的觀察（糖尿病と素因）　近藤清吾

討論　土肥部長。下平部長。

稀有なる球結膜下腫瘍供覽　加藤慶三

余は最近に見たる球結膜下腫瘍を報告し其寫圖を供覽せんとす、患者は本市彦三町の產にして西田某男一年六ヶ月なり、生後左眼角膜外緣部より白玉部に亘る帶黃色豌豆大の稍隆起せる腫瘍を存せり、爾來餘り增減なく僅に增大せるの感あるのみ其他に何等の病變なしと云ふ、十月十三日初診腫瘍は前記の如く球結膜下に於て瞳膜角膜境界部を占領し帶褐黃色にして軟性、隆起著しからず波動なし長徑一仙迷幅徑七密迷を算し內濕は角膜緣より三密迷角膜に侵入し外濕は七密迷瞳膜上に占居す、腫瘍上には一二の結膜細血管走行するのみ充血なく前房虹彩異常なし、以上發生部位色澤形狀第を考ふれは脂肪腫又は「デルモイド」ならんか、後日切除の上組織上の確診を下さんとす、而して文獻に依るも餘り多き者に非らす余は二十餘年間に此例を初めて實見せり。（自抄）

「チーフス」の十六例　山碕幹

十六例の「チフス」患者に就き詳述せられたり。

討論　松村喜一。近藤清吾。下平部長。

腎臟膿腫の一例（患者供覽）　石川精一

年齡十三歲の男兒（石川縣青成院院生）、生來健全著患なし、昨年十月下旬大腸加多兒に罹りしことあるのみ本年九月二十五日頃より寒冒の氣味ありしが同月二十八日午後突然惡寒戰慄後熱發激甚なる頭痛に苦む熱は三十九度內外稽留す食慾欠損口渴甚たしく舌は乾燥舌苔あり顏貌は無力狀腹部稍膨滿し脾腫なきも該部に壓痛あり尙右腸管窩に壓痛あり便秘す尿は褐色清澄なり蛋白の痕跡を証明す糖分なし十月八日窒扶斯「パラチフス」の血清反應を檢せしも共に陰性に終りたり同月十日蛔虫を吐出せしに熱は頓に解け三十七度に達し食慾も進み元氣大に回復し來りしか翌十一日再び三十八度に熱發せり翌十二日午前の尿は甚だ溷濁し居たりと云ふ十三日午後甚だ輕快を覺へたれば起立二三歩を歩きたるに其後右腰部に激痛を覺へ轉々苦惱せるを聞きて行き見るに右腎臟部に壓痛甚だしく（發赤腫脹を見ざるも）尿は乳白色の溷濁を呈せしかば直に入院を命し檢尿せるに膿球のみにて他に二三の赤血腎上皮を見るのみ二三日にて手術を施行せんとしたるに十六日突然解熱したれば經過を待ち居たるに其後一回も熱發なく膿球も漸次減少

し十日後には全く膿球なく腎上皮等なく尿量は初めは五〇〇cc比重一〇一五、平均なりしか膿球出でざるに至りて頓に浮加し水樣透明尿量は一三〇〇・〇—二九〇〇・〇cc比重一〇〇五—一〇一二に至る十一月五日退院其後今日に至る迄何等の障害なし思ふに右の腎臓髓質に出來たる膿腫が自然的破腫して治したるものならん。

追加　梶川靜夫。近藤清吾。

内藤式無反射檢眼鏡供覽　　高安右人

頸肋骨の一例　　佐崎伊久

※　※　※　※　※　※　※　※　※

叙任及辭令

●内閣

十一月二十日

依願免本官　　金澤醫學專門學校教授　石川喜直

●金澤醫學專門學校

十一月四日

依願囑託ヲ解ク　　眼科學副手囑託　牧田泰

十一月七日

眼科學副手ヲ囑託ス　　金澤醫學專門學校醫學士　源明藤吉

月手當金貳圓給與

十一月十三日

依願雇ヲ解ク　　雇　藤岡孫喜

十二月一日

雇申付　月俸金貳拾圓給與　　金澤醫學專門學校醫學士　木村武夫

醫化學副手ヲ命ス　　化學及分析學實習授業補助囑託　新次郎

依願囑託ヲ解ク　　金澤醫學專門學校藥學士　松岡協

化學及分析學實習授業補助ヲ囑託ス

月手當金拾六圓給與　　新次郎

化學實習副手ヲ囑託ス

●石川縣

十一月一日

金澤病院醫員ヲ命ス（十二級俸）　眼科　白田重良（四三）

金澤病院婦人科勤務ヲ命ス　　牧田泰（四三）

十一月九日

昇給九給俸　　松村喜一（四二）

依願職務ヲ免ス

十一月十四日

金澤病院醫員ヲ命ス（十二級俸）　内科一部　杉本兵太（大二）
内科二部　藤岡孫喜（大一）

十一月二十五日

依願職務ヲ免ス　婦人科　大脇彌平（大元）

●海軍省

免本職補常磐軍醫長　磐手軍醫長海軍軍醫少監　大西瀨治（三三）

免本職并兼職補最上軍醫長　舞鶴海軍病院附兼看護術練習所教官海軍大軍醫　小出貞次郎（三九）

任海軍大軍醫　海軍中軍醫從七位　萩野茂次郎（四一）

任海軍中軍醫　海軍少軍醫正八位　小俣幹翁（四四）

年俸千參百圓下賜（十一月二十日宮城縣）　宮城縣警察醫　田中吉六（三一）

願ニ依リ本職ヲ免ス（十一月二十日内閣）

人事

●死亡會員

最近左の諸氏の遠逝せられたる旨各遺族の方々より通知に接したり謹んで弔す。

福井縣丹生郡織田村（十二月二日）　橋三丸（三六）
福井縣三方郡佐柿（八月廿一日）　武長壽雄（四三）
横濱市西戸部町（十月廿二日）　乾一夫（四一）
臺灣新竹病院（十一月四日）　織田秀時（三九）

●田中正一氏の不幸

全氏（三十一年卒業）の嚴父は十月來風邪の氣味なりしに其後肺炎となり終に去十一月十五日逝去せられたり。

●研究生

本年度卒業生にして各科研究生を許可せられたる諸君は左の如し。

醫化學　原田四郎　中西文雄　芥川信
内科一部　北原直義　坂井貞準
内科二部　鹽村和喜男　東義雄
外科一部　高山周造
外科二部　石川寛二　鹿野重太郎　内藤賴一
皮膚花柳病　布施宗一
眼科　橘虎次郎　蘭守常次
産科婦人科　松本乙男　大瀧經　棚田喜久雄

●陸軍見習醫官

大正二年度卒業陸軍衛生部依託生の見習醫官左の通各隊に十二月九日より分布服務せらる。

歩兵第六聯隊（名古屋）　森部令次　大橋忠
歩兵第十一聯隊（廣島）　鶴來政雄
歩兵第十八聯隊（豐橋）　千田登　小森定司
歩兵第三十八聯隊（伏見）　下川外史　神田與敬

●轉居會員

東京市四谷區靈ヶ丘町三十七　田中吉六（三一）
東京市四谷區中根岸三十六、根岸養生院內　輕部修一（三四）
新潟縣古志郡上川西村　藤井最正（四一）
長野縣下伊那郡松尾村八攝　松村喜一（四三）
福井縣遠敷郡口名田村中井　巨田政信（四三）
秋田縣南秋田郡下新城村　宇佐美保久（四四）（舊性、湊）
金澤市油車六三、永山方　谷口明（四四）
富山縣下新川郡魚津町字大町　阿波加憲吉（四四）
三重縣河藝郡椋本村　駒田作之進（大元）
愛知縣東春日井郡守山町大字小幡貳百壹番戶　大島重雄（大元）

●居所不明會員

御存知の諸君は御手數ながら本會へ御一報下され度御願申上候
但し姓名の上に◎印あるは最近に不明となりたる會員諸君なり

舊住所	
東京市芝養生園	園崎純次郎（二九）
大阪市東區京橋三丁目	森岡惣太郎（三五）
大阪府立高等醫學學婦人科教室	小山田基（三六）
長野縣上水內郡長野町	◎須田嘉三郎（仝）
石川縣能美郡小松町字京町	松村四郎（三七）
朝鮮京城旭町二丁目	富久尾溪（仝）
朝鮮大邱同仁病院	西尾岱抱（仝）
軍醫	宮崎稻作（仝）
軍醫	
豫備工兵第九大隊	伏田金三（三八）
兵庫縣神戶病院	西村順八（三九）
門司市西川端町二丁目	本城熊三郎（仝）
獨乙國ミュンヘン市	戶井源吾（仝）
高知縣高岡郡須崎古市町	松久祐馬（仝）
近衛野砲兵聯隊	藤井茂（仝）
新潟縣中頸城郡新井町	木下節三（仝）
兵庫縣柏原病院	鈴木政治郎（仝）
久留米衛戍病院附	吉武安男（仝）
清國天津駐屯軍病院附	◎內海友七（仝）
北海道小樽慈惠病院	◎土屋重俊（仝）
廣島縣高田郡吉田町	◎江藤幹（仝）
福井縣立病院	瀧澤武藏（四一）
札幌北一條四丁目	五井康平（仝）
東京芝神谷町	楠正之（仝）
東京市神田區駿河臺井上眼科病院	松本文二（仝）
東京市芝區田村十九富田三十郎方	河崎正雄（仝）
篠山步兵第七十聯隊附軍醫	◎河合勝（仝）
佐渡國羽茂村本鄉	◎吉田繁治郎（仝）
群馬縣山田郡毛里村大字只上	勝部方策（四二）
島取市鳥取病院	小暮喜一（仝）
三重縣宇治山田市宇仁田病院	◎折笠圓隆（四三）
大阪市北區絹笠町同生病院	◎岡久雄（仝）
金澤市弓ノ町九	三上儉次（四四）
伏見步兵第三十八聯隊見習醫官	荻野鶴治（仝）
	◎島豐吉（大元）

會告

●大正元年度十全會費收支決算報告

大正元年度金澤醫學專門學校十全會費別紙ノ通リ決算ヲ遂ケ候結果収入ニ於テ金六拾七圓六拾八錢ヲ減シ支出ニ於テ金六拾八圓六拾壹錢殘餘差引金九拾參錢ノ剩餘ヲ生シタリ而シテ該金額ハ會則第十六條ニヨリ資金ヘ組入スヘキモノナリ

資金ハ大日本帝國政府四分利公債証書額面千參百圓並ニ金五百拾圓拾八錢參厘ニシテ本年度ニ於テ豫テ所有ノ大日本帝國政府五分利公債証書八百圓償還ニ付金七百四拾貳圓五拾錢ヲ以テ四分利公債証書額面九百圓ヲ購入セリ故ニ現在資金内譯左ノ如シ

大日本帝國政府四分利公債証書額面千參百圓也

金五百拾圓拾八錢參厘

内

金參百七拾壹圓參拾四錢參厘　前年度繰越金

金八拾圓四拾壹錢　故黑川良庵先生紀念銅牌建設殘餘寄付金

内

金七拾七圓六拾八錢　同上元金

金貳圓七拾參錢　同上預金利子

金五拾七圓五拾錢　五分利公債証書償還ニ付四分利公債証書購入差金

金九拾參錢　本年度決算ノ結果剩餘

尚外ニ「ピアノ」購入基金九拾參圓六拾四錢貳厘ナリ

依テ繰越現金六百參圓八拾貳錢五厘ナリ

右報告候也

●大正元年度金澤醫學專門學校十全會費收入決算表

科目	豫算額	収入濟額	豫算額ニ比シ収入濟額差 増	豫算額ニ比シ収入濟額差 減	備考
第一款　金澤醫學專門學校十全會特別會員寄付金	一、六九六・三九〇	一、六二八・七一〇	—	六七・六八〇	
第一項　職員寄付金	一三四・五一〇	一四三・二七〇	八・七六〇	—	
第二項　通常會員會費	一、三五〇・〇〇〇	一、二七一・五〇〇	—	七八・五〇〇	
第一目　醫學生會費	一、二〇〇・〇〇〇	一、〇五五・五〇〇	—	六四・五〇〇	
第二目　藥學生會費	三三〇・〇〇〇	二二六・〇〇〇	—	一四・〇〇〇	
第三項　入會金	一四〇・〇〇〇	一二一・〇〇〇	—	一九・〇〇〇	
第一目　入會金	一四〇・〇〇〇	一二一・〇〇〇	—	一九・〇〇〇	
第四項　利金	七一・八八〇	九二・九四〇	二一・〇六〇	—	
第一目　預金利子	七一・八八〇	九二・九四〇	二一・〇六〇	—	

●大正元年度金澤醫學專門學校十全會費支出決算表

科目	原豫算額	流用增減額 ＊印ハ減	豫算現額	支出濟額	不用額
經常部					
第一款 金澤醫學專門學校十全會春季陸上運動會	一、五九六・三九〇	—	一、五九六・三九〇	一、五二七・七八〇	六八・六一〇
第一項 同上	一九〇・〇〇〇	—	一九〇・〇〇〇	一八四・九四〇	五・〇六〇
第二項 講話部	七〇・〇〇〇	〇・〇一〇	七〇・〇一〇	七〇・〇一〇	—
第一目 大會費	六八・〇〇〇	＊一・〇六〇	六六・九四〇	六六・九四〇	—
第二目 通常會費	二・〇〇〇	一・〇七〇	三・〇七〇	三・〇七〇	—
第三項 雜誌部	五四八・六〇〇	—	五四八・六〇〇	五三七・七三〇	一〇・八七〇
第一目 雜誌費	四三〇・〇〇〇	一・六七〇	四二一・六七〇	四二一・六七〇	—
第一節 醫學科	三四八・〇〇〇	一・六七〇	三四九・六七〇	三四九・六七〇	—
第二節 藥學科	七二・〇〇〇	—	七二・〇〇〇	七二・〇〇〇	—
第二目 圖書費	九五・〇〇〇	＊四・九七〇	九〇・〇三〇	八六・八一〇	三・二一〇
第三目 通信費	一五・六〇〇	—	一五・六〇〇	七・九四〇	七・六六〇
第四目 消耗品費	七・〇〇〇	〇・五七〇	七・五七〇	七・五七〇	—
第五目 製本費	一〇・〇〇〇	一・七八〇	一一・七八〇	一一・七八〇	—
第六目 雜費	一・〇〇〇	〇・九五〇	一・九五〇	一・九五〇	—
第四項 ロンテニス部	八〇・〇〇〇	—	八〇・〇〇〇	八〇・〇〇〇	—
第一目 部費	六五・〇〇〇	＊一一・四四〇	五三・五六〇	五三・五六〇	—
第二目 大會費	一五・〇〇〇	一一・四四〇	二六・四四〇	二六・四四〇	—
第五項 劍道部	七〇・〇〇〇	—	七〇・〇〇〇	七〇・〇〇〇	—
第一目 大會費	三五・〇〇〇	＊三・三一〇	三八・三一〇	三八・三一〇	—
第二目 奬勵費	三五・〇〇〇	三・三一〇	三八・三一〇	三八・三一〇	—
第六項 柔道部	七〇・〇〇〇	—	七〇・〇〇〇	七〇・〇〇〇	—
第一目 大會費	三五・〇〇〇	＊〇・八六〇	三四・一四〇	三四・一四〇	—
第二目 奬勵費	三五・〇〇〇	〇・八六〇	三五・八六〇	三五・八六〇	—
第七項 弓術部	六〇・〇〇〇	—	六〇・〇〇〇	五九・七三〇	〇・二七〇
第一目 大會費	一五・〇〇〇	一三・四一〇	二七・四一〇	二七・四一〇	—
第二目 備品費	二五・〇〇〇	＊九・九九〇	一五・〇一〇	一四・七四〇	〇・二七〇
第三目 奬勵費	二〇・〇〇〇	＊二・二四〇	一七・五八〇	一七・五八〇	—
第八項 野球部	一一〇・〇〇〇	—	一一〇・〇〇〇	一一〇・〇〇〇	—
第一目 部費	九五・〇〇〇	一四・四〇〇	一〇九・四〇〇	一〇九・四〇〇	—
第二目 大會費	一五・〇〇〇	＊一四・四〇〇	〇・六〇〇	〇・六〇〇	—
第九項 會務費	三三〇・五〇〇	〇・一〇〇	三三〇・六〇〇	三三〇・四九〇	〇・一一〇
第一目 教師囑託手當	一九八・〇〇〇	＊六・六九〇	一九一・三一〇	一九一・三一〇	〇・〇一〇
第二目 備品費	二〇・〇〇〇	＊一五・三一〇	四・六八〇	四・六八〇	—
第三目 印刷費	〇・五〇〇	＊〇・五〇〇	—	—	—
第四目 消耗品費	五・〇〇〇	一五・四一〇	二〇・四一〇	二〇・三一〇	〇・一〇〇
第五目 雜費	七・〇〇〇	七・一五〇	一四・一五〇	一四・一五〇	—
第十項 學術實習部	八五・四〇〇	—	八五・四〇〇	三六・六八〇	四八・七二〇
第一目 藥品材料費	五五・四〇〇	—	五五・四〇〇	三二・六〇〇	二三・八〇〇

科目	原豫算額	流用增減額	豫算現額	支出濟額	不用額	備考
第二目　備品費	二〇・〇〇〇	—	二〇・〇〇〇	一・三三〇	一八・四七〇	
第三目　雜費	一〇・〇〇〇	—	一〇・〇〇〇	二・五五〇	七・四五〇	
第十二項　豫備費	八〇・八九〇	＊〇・二一〇	八〇・七八〇	七八・二〇〇	二・五八〇	
第一目　豫備費	八〇・八九〇	＊〇・二一〇	八〇・七八〇	七八・二〇〇	二・五八〇	
第十三項　端艇基金	一・〇〇〇	—	一・〇〇〇	—	一・〇〇〇	
第一目　端艇基金	一・〇〇〇	—	一・〇〇〇	—	一・〇〇〇	

●大正元年度金澤醫學專門學校十全會臨時費支出決算表

科目	原豫算額	流用增減額	豫算現額	支出濟額	不用額	備考
臨時部						
第一款　臨時部	一〇〇・〇〇〇	—	一〇〇・〇〇〇	一〇〇・〇〇〇	—	
第一項　コート新設費	一〇〇・〇〇〇	—	一〇〇・〇〇〇	一〇〇・〇〇〇	—	

●大正元年度十全會校外特別會員會費收支決算報告

大正元年度十全會校外特別會員會費收支決算ノ結果

本年度收入金額　一、八八一・二三〇

ナリ内

自大正二年度至大正九年度會費前納金額　四〇六・二〇〇

チ扣除シ殘金　一、四七五・〇三〇

ハ本年度實收入金額ナリ

本年度支出濟額ハ　七九一・七四〇

ニシテ收入額ニ比シ　六八三・二九〇

ノ剩餘ヲ生シタリ而シテ

前年度（四十四年度）缺損金　一五一・九四七

チ償還シ差引　五三一・三四三

ハ會則第十六條ニヨリ資金ヘ組入スヘキモノナリ

資金ハ大日本帝國政府四分利公債証書額面參百圓並ニ金五百五拾壹圓九拾參錢參厘ニシテ內譯左ノ如シ

金貳拾圓五拾九錢　前年度繰越高

金五百參拾壹圓參拾四錢參厘　本年度剩餘金

依テ繰越現金九百五拾八圓拾參錢參厘ナリ

右報告候也

●大正元年度金澤醫學專門學校十全會校外特別會員會費收入決算表

科目	豫算額	收入濟額	豫算額ニ比シ収入濟額差 増	減	備考
第一款　金澤醫學專門學校十全會特別會員會費	一、三七七・六六〇	一、八八一・二三〇	五三三・五七〇	—	
第一項　校外特別會員會費	一、三七七・六六〇	一、八八一・二三〇	五三三・五七〇	—	
第一目　大正元年度會費	五二七・二〇〇	七二六・八〇〇	一九九・六〇〇	—	內金貳百四拾四圓八拾錢ハ本年度以前々納ノモノ
第二目　前年度未納會費	三〇〇・〇〇〇	七一〇・〇〇〇	四一〇・〇〇〇	—	

第三目　前納會費	三〇〇・〇〇〇	一五八・〇〇〇		一四二・〇〇〇
第二項　利金	三二・四六〇	三八・三四〇	一五・七七〇	—
第一目　預金利子	三二・四六〇	三八・三四〇	一五・七七〇	—
第三項　繰越金	二八・〇〇〇	二四八・一〇〇	三〇・一〇〇	—
第一目　繰越金	二八・〇〇〇	二四八・一〇〇	三〇・一〇〇	—
合計	一、三六七・六六〇	一、八八一・三三〇	五一三・五七〇	—

第三目　雜費	八〇・〇〇〇	六・〇六〇	八六・〇六〇	八六・〇六〇	三五・〇〇〇	—
第二項　豫備費	四一・〇六〇	*六・〇六〇	三五・〇〇〇	三五・〇〇〇	—	—
第一目　豫備費	四一・〇六〇	*六・〇六〇	三五・〇〇〇	三五・〇〇〇	—	—

大正元年度金澤醫學專門學校十全會校外特別會員會費支出決算表

科目	原豫算額	流用額 *印ハ減	豫算現額	支出濟額	不用額
第一款　金澤醫學專門學校十全會校外特別會員會費	八四九・六六〇	—	八四九・六六〇	七九一・七四〇	五七・九二〇
第一項　校外特別會員會費	七四八・六〇〇	—	八一四・六六〇	七五六・七四〇	五七・九二〇
第一目　雜誌費	六一〇・八〇〇	二〇・五八〇	六三一・三八〇	五九二・九八〇	三八・四〇〇
第一節　醫學科	五七三・四〇〇	二〇・五八〇	五九二・九八〇	五九二・九八〇	—
第二節　藥學科	三八・四〇〇	—	三八・四〇〇	—	三八・四〇〇
第二目　通信費	一一七・八〇〇	*二〇・五八〇	九七・二二〇	七七・七〇〇	一九・五二〇
第一節　醫學科郵便電信料	一〇〇・八〇〇	*二〇・五八〇	八〇・二二〇	七七・七〇〇	二・五二〇
第二節　藥學科郵便電信料	七・〇〇〇	—	七・〇〇〇	—	七・〇〇〇
第三節　在京囑託員通信料	一〇・〇〇〇	—	一〇・〇〇〇	—	一〇・〇〇〇

自大正二年八月二十二日至仝十一月廿八日校外特別會員會費納付調書

金額	期限	氏名
金參圓	自大正二年度至大正四年度三ヶ年分	堀井京治君
金參圓	自大正元年度至大正三年度三ヶ年分	米元正雄君
金參圓	自大正二年度至大正四年度三ヶ年分	濱野文吉君
金參圓	仝	岡本晃君
金參圓	仝	廣瀨文岳君
金參圓	仝	大島重雄君
金壹圓	大正二年度分	渡邊仙岳君
金五圓	自四十二年度至大正二年度五ヶ年分	瀨尾順四郎君
金參圓	自大正二年度至大正四年度三ヶ年分	生橋一郎君
金參圓	仝	筱岡良作君
金參圓	仝	原伊之君
金壹圓	大正元年度分	近藤清吾君
金參圓	自大正二年度至大正四年度三ヶ年分	田中吉左衛門君
金參圓	仝	藤田孫太郎君

金拾圓　自四十一年度至大正六年度十ヶ年分　平原雲新君
金參圓　自大正二年度至大正四年度三ヶ年分　棚田喜久雄君
金參圓　仝　巨田政信君

以上

廣告

謹啓時下初冬之候益々御清祥之段奉賀候陳者恩師石川教授曩ニ現職ノマヽ北京醫學專門學校教授トシテ御赴任相成候處今般御都合ニ依リ金澤醫學專門學校教授ヲ辭職致サレ候ニ就テハ吾等門下生一同ハ此際何等カノ紀念品ヲ贈呈シ恩師ガ積年ノ御高恩ニ相酬ヒ度キ計畫有之候間主意御賛同ノ上御醵金相成度右御願迄如斯候也敬白

大正二年十二月十五日

發起人（*印委員）

*石坂直次郎　*井上松三郎　伊藤又吉　八田智証
林龍門　富田直　額又太郎　*小原德太郎
大橋忠俊　*奥山義盛　加納景成　加藤寛
*梶川靜夫　蚊野才三郎　吉尾開道　吉田宗一
舘保二　田村圓四郎　高桑勇次郎　田中基保
土谷重俊　塚崎茂　*中村欣一郎　村本淳吉
村松純吉　牛塚榮太郎　能澤清隆　眞澤貞一
*福岡喜洋　*近藤清吾　小池才一　天野長重
齋藤房治　佐々木純一郎　*佐崎伊久　*佐口榮
喜多禎次　島誠郁　白井濟　進士愛太郎
樋口平次　關川敬治

追而

一、醵金額ハ金壹圓以上ニ相願度候
一、醵金ハ大正三年三月末日迄ニ御送附相願度候
一、醵金ハ相添ヘ置キ候振替貯金用紙御利用ノ程願上候
一、領收書ハ別ニ發送致サズ十全會雜誌ニテ發表致スベク候
一、贈呈ノ物品等ニ就テハ委員ニ御一任相願度候

加藤寛博士

福井縣今立郡岡本村杉尾第十四號一番地平民
鯖江藩

加藤寛

明治十二年一月十七日生

一明治三十六年十一月　金澤醫學專門學校卒業
一同　三十七年一月　醫術開業免狀下付
一同　年同　石川縣金澤病院醫員拜命
一同　年同　金澤醫學專門學校內科學教務囑托
一同　三十八年二月　依願金澤病院醫員辭職
一同　年同　依願金澤醫學專門學校內科學教務囑托辭職
一同　年七月　福井縣鯖江町ニテ開業
一同　四十年一月ヨリ一ケ年六ケ月獨乙グライフスワールド大學ニテシンコウスキ教授ノ下ニ內科學ヲ研究シ傍ラ藥物學及醫化學ヲ研究ス
一同　年十一月グライフスワールド大學ニ於テ論文提出ドクトルノ學位ヲ受ク
一同　四十二年六月ヨリ二ケ年間獨乙國ハルレー大學ニ轉ジシユミッド教授ノ下ニ內科學專攻
一同　四十三年五月歸朝
一同　四十三年六月ヨリ同四十五年六月マテ二ケ年間京都帝國大學醫科大學荒木教授ノ下ニ內科ニ關スル醫化學研究
一大正元年九月九日任金澤醫學專門學校教授
一同　叙高等官七等
一同　八級俸下賜
一同　十月三十日叙從七位
一大正二年十二月二十六日醫學博士ノ學位ヲ受ク

主論文題目

一、「グリコゲーン」ノ顯微鏡的化學的証明補遺及ビ各季節ニ於ケル蛙ノ卵巢內ノ「グリコゲーン」ノ關係ニ就テ（獨文）

參考論文

一、蛙ノ「グリコゲーン」量ニ就テ及蛙ノ肝臟「グリコゲーン」ノ分量的組織ニ就テ（獨文）
二、腸內ニ於ケル瓦斯吸收ニ就テ（獨文）
三、筍中ニ於ケル酵素ニ就テ（獨文）